北海道の国際協力情報紙
であい
vol.73 2014 AUTUMN
公益社団法人
北海道国際交流・協力総合センター
HIECC／ハイエック
Hokkaido International Exchange and Cooperation Center

特集

留学生ふれあい交流 in くりやま
～くりやま夏まつり参加と自然環境体験を実施～

7月25日（金）・26日（土）の二日間、HIECC（ハイエック）主催の留学生ふれあい交流事業を実施し、北海道内の大学に学ぶ留学生29名（14カ国・地域）が栗山町を訪れ、地元で開催された「第39回くりやま夏まつり」へ参加するとともに、同町における環境への取り組みについて学んだ。

椿原紀昭栗山町長を囲んで記念写真

くりやま夏まつりに参加（25日）

留学生一行は札幌からバスにて1時間ほどで栗山町に到着。椿原紀昭町長の歓迎を受けた後、早速、法被に着替え、祭り会場の屋台など祭りの雰囲気を楽しんだり、ステージパフォーマンスに飛び入り参加し、町民に向けて中国少数民族の歌やインドのダンスなどを披露した。また、夜には栗山町役場チームの一員として「郷土おどりパレード」に参加。踊りは事前に栗山町職員から指導してもらって練習していたが、はじめは独特の振り付けに苦戦しながらも、「太鼓をたいて」「いらっしゃい」などのかけ声を合わせ、短期間でマスター。迎えた本番では練習の成果を十分に発揮し、見事片道約400mのメイン通りをおよそ1時間かけて踊りきった。その後は疲れも見せず地元の青年部の方々と一緒に「活みこし」に参加。「ワッショイ!ワッショイ!」と元気なかけ声とともに、心と力を合わせて商店街を練り歩き、祭りの熱い夜を盛り上げた。打ち上げとして行われたバーベキュー交流では祭り参加者と一緒にジンギスカンを食べて楽しい夜のひとときを過ごしていた。

くりやま夏まつり「郷土おどりパレード」に参加

環境への取り組みについて学ぶ（26日）

栗山町は、国蝶オオムラサキ生息の国内東北限となる発見を契機として、「人と自然が共生するまちづくり」計画を策定し、自然体験や環境教育活動を積極的に展開してきている。今回宿泊した「雨煙別小学校コカ･コーラ環境ハウス」も、戦前の1936年（昭和11年）に建設された木造2階建ての校舎を、2009年（平成21年）に財団法人コカ･コーラ教育・環境財団の支援と、延1,500人におよぶ町民ボランティアの参加によって、「環境教育を行う宿泊可能な体験施設」として再生させた建物である。留学生は同施設を運営しているNPO法人雨煙別学校の協力のもと、栗山町の環境への取り組みについて、講義や「ハサンベツ里山地区」の散策を通じて学んだ。前夜には同施設で蛍も観賞でき、留学生からは、「普段自然にあまり触れないので新鮮だった」「自然の大切さについて考えることができた」など感想が挙がった。お昼には、同地区で収穫されたトマトや薪などを使ってピザ作りを行い、自然の恵みに感謝しながら、食事も楽しんだ。

NPO職員の案内でハサンベツ里山地区を散策

留学生は地域の活力になる存在

今回の事業のまとめとして、「農村都市交流のあり方」をテーマにディスカッションを行い、栗山町やNGOの職員とともに、同町の魅力や今後の地域活性化にむけた意見交換を行った。留学生からは、「栗山町は人々のホスピタリティや自然がすばらしい」「道外や海外の人向けに自然体験ツアーをつくればよい」「すばらしい町なのでもっとアピールしたら観光客が増える」などたくさんの意見が出されていた。

グループディスカッションによるふりかえり

今回参加した留学生からは、「一緒に交流することで日本の文化をより理解できた」という意見が多数寄せられた。一方、栗山町からも「祭りに活気が生まれた」「今までいろいろな学生と話したが、栗山町の魅力を平和と言ってくれたのははじめてで驚いた」など感謝の声をいただいた。

留学生の元気やパワーは、これからの地域の活力として期待できることから、当センターとしても、引き続き地域住民との交流の機会を設け、地域の国際化や活性化をサポートしていきたいと考えている。

旭川の草の根レベルの国際交流を推進

「外国に行ったときにすごく親切にしてくれたので、恩返しに何かしたい」、「外国人と直にふれあいたい」との市民の声に応えるべく、草の根的国際交流の場を提供することを目的として旭川市国際交流委員会を設立したのは平成2年のことです。当初ボランティアガイド、ホームステイボランティアの2種類のボランティア登録から始まり、平成10年からは本委員会主催の国際交流事業の企画 ・ 運営を手伝ってくれる企画交流ボランティアも加わりました。総勢144名のボランティアと共に旭川市の国際化に関わっていきたいと思っています。毎年4つの国際交流事業をボランティアと共に開催し、多くの市民に参加してもらっています。自主事業として姉妹友好都市の言語に触れてもらうためロシア語、ハングル、中国語の入門語学講座、また医療英語セミナーも開催しています。在住外国人やJICA研修員また留学生に日本文化を紹介する日本文化体験も開催しています。

日本文化体験（そば打ち）

医療英語セミナー

【国際交流事業】

1　**フレンドシップ ・ パーティー**
市内在住外国人や研修員と旭川市民が一緒にパークゴルフやボウリングなど体を動かして交流します。年1回開催。

2　**Happy Halloween Week/Halloween Story Night**
旭川市国際交流センター内をハロウィーン調に飾付し、ハロウィーン当日にはストーリー ・ ナイトとしてちょっと怖くて不思議なお話をお聞かせします。トリック ・ オア ・ トリートを1週間ほど開催します。

3　**料理教室**
毎回違う出身国の講師を招き、旭川市民と一緒に3品から5品の料理を作って、食文化などを学びます。年1回開催。

4　**エンジョイ ・ ウィンター in旭川**
冬が寒くて長い旭川で楽しんでもらおうと在住外国人と旭川市民が一緒にスノーバナナに乗ったり、スケートをしたりして楽しみます。年1回開催。

5　**日本文化体験**
餅つき体験、そば打ち体験、染め物体験など開催しています。年1回開催。

【語学研修事業】

1　**医療英語セミナー**
講師をお招きして医療英語通訳について学びます。年1回開催。

2　**入門語学講座（露 ・ 韓 ・ 中）**
全20回のコースです。年1回開催。

旭川市国際交流委員会
■〒070-0031　旭川市1条通8丁目フィール旭川7F　旭川市国際交流センター
■電話：0166-25-7491　■FAX：0166-23-4924　■URL：http://asahikawaic.jp

カルチャーナイト2014 @HIECC

7月18日（金）
午後6時半～午後9時

カルチャーナイトは北欧が発祥の行事で、普段は日中しか開いていない公共施設や文化施設などを夜間開放し、子どもだけでなく大人を含む市民、観光客など誰もが地域の文化を楽しめる行事として始まり、今年で開催12回目を迎える。札幌市内だけでも100カ所以上の施設が参加し、HIECC（ハイエック）もこのイベントに参加した。

「ワールドカフェ」で世界一周気分

ハイエックでは、札幌市内留学生など外国の方々の協力を得て、「世界の遊びとクイズ」、「ワールドカフェ」、「世界の民族衣装を着てみよう」「世界のお茶を飲んでみよう」と4つのコーナーを実施。また、北海学園大学人文学部の学生14名が、通訳や案内役としてイベント運営のアシスタントとして大活躍した。

韓国、中国、フィリピン、パラグアイ、アルゼンチン、ブラジル、マラウイからの留学生が「ワールドカフェ」を盛り上げてくれ、子どもたちは楽しくおしゃべりをし、最後にはすっかり留学生たちと仲良くなって、その国が身近に感じられたようだった。

マラウイのこといろいろ教えてもらったよ

「世界の遊びとクイズ」で行われたクイズには、フィリピンと中国に関する難問が続出。直感?!を働かせながら正解にたどりつく参加者もいて、一問ごとに拍手が起きるなど盛り上がりをみせていた。また、フィリピンの留学生が準備した遊び、「ジャリヨ」（新聞ダンス）は、子どもだけでなく大人も一緒に楽しめる内容。一段階ごとに新聞が小さく折りたたまれ、最後に手のひらサイズになった新聞紙の上にペアが乗るときは、周りも声援を送り、何組かのペアはおんぶや抱っこなどあらゆる方法を駆使して無事成功していた。

ペアで新聞にうまく乗れるかな?

今年も、家族連れや、学校帰りの高校生など多くの来場者が、世界を身近に感じる夏の一夜を過ごしていた。

国内で
英語漬け?!

ニセコサマースクール

（8月18日～22日　北海道インターナショナルスクールニセコ校）

2012 年1月に開校した北海道インターナショナルスクールニセコ校。2013 年からは、6才～12才を対象に春休みと夏休みにシーズナルスクールを開催し、今年の夏が2年目（4回目）となった。ニセコ校の古賀シャノン校長代理によると、今年は昨年よりも応募者が倍増し、講師数の増員などで可能な限り希望者を受け入れられるよう工夫したそう。その背景には、参加者のニーズの多様化がある。

「英語って楽しい！」と思える
授業になるよう工夫をこらす講師

サマースクールは6週間実施され、全期間参加もできるが、1週間や2週間、また1日だけでも参加可能。英語力の向上を目標に参加する子もいるが、ニセコ校は英語力不問なので、英語に触れてみることから始める児童もいるとのこと。また、両親が道内観光を楽しんでいる間に、子どもは自然豊かなニセコで語学や環境を学べるのも魅力で、マレーシア、韓国、シンガポール、香港などの海外からの参加者が増えたのも今年の特徴の一つだそう。外国人にとって人気観光地の北海道ならではの理由かもしれない。

このサマースクールに東急不動産㈱ならびに㈱東急リゾートサービスが社会貢献・環境保全といったCSR（企業の社会的責任）の一環として、今年初めて参加者を募集したところ、関東圏から8名が参加。英語教育に熱心な家族からの参加はもちろん、北海道の自然に触れさせたいという家庭や、また、共働きのため、子どもと一緒に過ごす時間がなかなか作れない家庭からのニーズもあったそう。東急不動産㈱の担当者は、「ニセコは言わずと知れた人気スキーリゾート。その一方、夏は閑散期。せっかくのリゾートインフラを夏にも活用できるよう、ニセコならではの『自然』や『在住外国人が多い』という素材を活かして、「安心・安全の留学」をテーマに今年から始めた事業。今年の反響を見ながら、今後の関わりも検討したい」と語っていた。

今年のテーマは「川」。
滑り台を使いながら体験的に学ぶ子どもたち

2年前に開校したインターナショナルスクールを起点に、ニセコの新たな可能性の拡がりを感じられる事業になっていきそうだ。

「グローバルに活躍する」気にさせるセミナー

（7月29日　火曜日　北海道大学国際本部）

スリランカでの業務について具体的に話す浅井氏

北海道大学国際本部では、2011年6月より海外で活躍する卒業生などを講師として招くセミナーを定期的に開催し、今回で18回目の開催。この日は、北大出身で、国際協力機構（JICA）職員としてスリランカに駐在する浅井氏が、「急成長するスリランカと日本」というテーマで講演を行った。

歴史や経済などの概要からスタートし、スリランカと日本の様々な繋がりを紹介。英語が堪能で手先が器用なスリランカ人の特徴を生かし、化粧筆や陶器の有名日本メーカーが進出している現状や、2004年のスマトラ沖地震の際に援助をした日本に対して好感を抱いている人も多く、東日本大震災のときは、着任したばかりの駐日スリランカ大使が、公式行事よりも最優先して、被災地で炊き出しをしたエピソードが紹介された。さらに、時代をさかのぼると、サンフランシスコ講和会議でのスリランカ（当時セイロン）代表のスピーチが、講和締結と戦後日本の復興の道筋を作った逸話も。スリランカと日本の深く長い繋がりに、聴衆の学生も興味を示しながら聞いていた。

先輩に続け！と熱心に講演を聞く北大生

このセミナーは、学生が海外への関心を高め、また語学研修や交換留学への参加を促すため、また将来的には学生にグローバルに活躍できるよう北大国際本部が主催し実施している事業。浅井氏は、現地で実際に携わっている業務について話し、学生たちは身近な卒業生がどのように活躍しているか具体的な内容を聞いて、それぞれ将来について考えるきっかけになったかもしれない。

質疑応答では、「現地の人は本当に支援を求めているのか」など講演に関するものから、「学生時代から海外で働くことを考えていたか」などの質問も出ていた。最後に、講師から後輩たちに対し、「15年間働いて気付いたことは、歴史、特に現代史を学ぶ必要性。自分自身が今まで痛い目に遭うこともあった。ビジネスマンとして必須です」とアドバイスをし、講演を締め括った。

さっぽろ留学生日記

「雪のあるところで暮らしたい」北大の美しいキャンパスに惹かれて留学を決意

ジン　サヴォリー さん
カンボジア王国
北海道大学
（日本語・日本文化研修（JLCS）プログラム）

偶然めぐってきた日本との縁

「実は、そんなに日本に興味はありませんでした」と流暢な日本語で話すサヴォリーさん。「小さいときは、日本のアニメをテレビで見たことがある程度。でも、大学１年生のときに、おばに誘われ名古屋を一週間旅行し、見るもの食べるもの全てが新鮮で、日本に興味を持ち始めました」と。ちなみに、その旅行で一番おいしかった料理は天ぷらだそう。

プノンペンで2つの大学に通う!?

名古屋旅行のときは、首都・プノンペン市にある法律経済大学で学び、将来は政府で働きたいと思っていたサヴォリーさん。しかし、日本での滞在をきっかけに、日本語を勉強したくなったとのこと。「大学の3年目からは、午前に法律経済大学に行き、午後からは日本語学科のある大学に通っていました。２つの大学は市内でも離れているので、毎日急いでバイクで移動。昼食も摂らずに勉強することもしょっちゅうでした」と。法律の大学は無事に卒業でき、帰国後は日本語学科にあと１年通う。

雪のある生活に憧れて

日本語学科の先生から紹介されたプログラムで、再度日本を訪問する機会に恵まれた。2013年1月、東日本大震災後の「絆プロジェクト」に参加。「沿岸部には瓦礫がまだあり、被災者の体験談から、寒い時期に災害に遭うことは本当に大変だと感じました」と。また、このとき初めて見た雪が印象的で、「雪のあるところで生活したい!」と新たな目標が。帰国後、インターネットで北大のプログラムを見つけ、「北大の美しいキャンパスに惹かれて、迷わず申し込みました」と。

札幌の生活での一番の収穫!?

生活で一番楽しかったことを尋ねると、「全てです。でも、特に良かったことは、料理を作れるようになったこと!」と意外な答えが。インド人留学生の友人に作り方を教えてもらったインド料理が最も得意だそう。今では、教えてくれた本人よりも上手に作れるようになり、友人に作ってほしいとせがまれるほどの腕前に。「帰国したら、家族に食べさせて驚かせたいです」と笑顔で話していた。

9月下旬には帰国するサヴォリーさん。「札幌にいる間に大好きなスープカレーをあと3回は食べに行きたい。また、日本語学科を卒業したら、今度は大学院生として北大に戻ってきたいです」と。目を輝かせながら、新たな目標を語っていた。

洞爺湖にて。「北海道の大自然が大好きです」

ハイエック（公益社団法人　北海道国際交流・協力総合センター）会員入会へのお願い

北海道国際交流・協力総合センター（HIECC／ハイエック）は、北海道における国際活動の総合的、中核的な拠点として、世界各国との国際交流・協力活動などを通じて北海道の振興発展に貢献して参ります。

年会費	法人等会員	1口	10,000円
	一般個人会員	1口	5,000円
	学生・主婦・シニア等会員	1口	2,000円

入会のお申込みは随時受け付けております。
また、入会口数は1口に限らず何口でも結構です。

会員特典

1. シンボルマークの会員バッジ進呈
2. 季刊紙「Hoppoken」（年4回）、「年報」、国際協力情報紙「であい」（年3回）を配布。
（ホームページの会員専用ページでは「Hoppoken」のバックナンバーの閲覧が可能）

HIECCの主な事業

国際交流・国際協力情報の提供、国際理解講演会・セミナーの開催、海外派遣事業、国際交流事業への助成、通訳ボランティアの派遣、留学生と地域のふれあい交流、調査研究事業など

公益社団法人
北海道国際交流・協力総合センター
ＨＩＥＣＣ／ハイエック

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館
発行日：2014年10月6日
TEL. 011（221）7840　FAX. 011（221）7845　http://www.hiecc.or.jp
E-mail：intc@hiecc.or.jp（交流・協力部）
印　刷：岩橋印刷株式会社